5課

8月2日

過　越

安息日午後　7月26日

暗唱聖句

もし、あなたがたの子供たちが「この儀式はどんな意味ですか」と問うならば、あなたがたは言いなさい、「これは主の過越の犠牲である。エジプトびとを撃たれたとき、エジプトにいたイスラエルの人々の家を過ぎ越して、われわれの家を救われたのである」。（出エジプト記 12：26、27、口語訳）

また、あなたたちの子供が、「この儀式にはどういう意味があるのですか」と尋ねるときは、こう答えなさい。「これが主の過越の犠牲である。主がエジプト人を撃たれたとき、エジプトにいたイスラエルの人々の家を過ぎ越し、我々の家を救われたのである」と。（出エジプト記 12：26、27、新共同訳）

今週の聖句

出エジプト記 11：1 ～ 10、ミカ 6：8、出エジプト記 12：1 ～ 30、Ⅰコリント 5：7、出エジプト記 13：14 ～ 16、ヘブライ 11：28

今週のテーマ

10番目の最後の災いが降りかかろうとしています。最後の警告が発せられ、最後の決断を下さなければなりません。まさに生死に関わる問題です。個人の命だけでなく、家族や国家全体の繁栄もかかっています。ファラオとその家臣たちは、多くの人の生死の責任を負うことになります。イスラエルの生ける神に対する態度は、ファラオの将来だけでなく、国の未来を決定するのです。

状況の重大さが私たちに重くのしかかり、多くの人に影響する次の一歩と方向性を選択しなければならないとき、私たちはどう感じ、どうするでしょうか。

神は私たちに、正しいことを行うための知恵、理解力、力を、喜んで与えてくださいます（Ⅰコリ1：30、フィリ2：13）。

しかし問題は、かたくなな心のゆえに、私たちが必ずしも正しいことをしたいとは思わないことです。正しいことが何であるかを知っていながら、それを行おうとしないのです。出エジプト記では、圧倒的な証拠を前にしても神に従うことを拒んだ1人の男が、自分以外の多くの人に悲劇をもたらしました。そして、そのようなことはよくあることなのです。

日曜日　7月27日　もう一つの災い

預言者アモスは、「まことに、主なる神はその定められたことを／僕なる預言者に示さずには／何事もなされない」（アモ3：7）と明言していますが、神は預言者モーセを通して、次に起こることをファラオに示されました。最も厳粛な警告がファラオに与えられました。これは、エジプトに災難を引き起こした高慢、搾取、暴力、偶像礼拝に対する公正な裁きとなるでしょう。

問1　出エジプト記11：1〜10を読んでください。エジプトに裁きを行う前に、神はどんな警告をお与えになりましたか。

神はエジプトに、最近起きた出来事とそれらが意味することについて考えるための暗闇の3日間（出10：22、23）をお与えになりました。また、最後の明確な警告、つまり正しいことを行う最後のチャンスも提供されました。

しかし出エジプト記11：8には、「モーセは憤然としてファラオのもとから退出した」と書かれています。なぜモーセは怒って立ち去ったのでしょうか。おそらく彼は、10番目の災いという悲劇が多くの罪のない人を撃つことを知っていたからでしょう。すべては、ファラオの心のかたくなさのせいです。

また、10という数字は、聖書の象徴として重要です。10は、満たされること、または完全をあらわします（十戒が神の道徳律の完全な啓示であることを思い出してください）。エジプトでの10の災いは、神の裁きと報復の完全なあらわれを示しているのです。

神は裁き主であり、高慢、不正、差別、傲慢、搾取、残虐、利己主義に反対されます。そして、苦しむ人、虐待されている人、不当に扱われている人、迫害されている人の味方です。神は裁かれますが、それはまさに神の愛のもう一つのあらわれなのです（詩編2：12、33：5、85：12〔口語訳85：11〕、89：15〔口語訳89：14〕、101：1、イザ16：5、エレ9：23〔口語訳9：24〕参照）。

私たちもまた、愛と正義を両立できるように最善を尽くすべきです。しかし私たちは、どちらか一方に、つまり極端に容易に走ってしまうのです。「愛」ゆえに、私たちは過ちや正さなければならないことに目をつぶってしまいます。あるいは、正義がまるで鋼鉄でできているかのように、冷酷に裁いてしまいます。どちらの極端も正しくありません。むしろ、これが理想です。「主が何をお前に求めておられるかは／お前に告げられている。正義を行い、慈しみを愛し／へりくだって神と共に歩むこと、これである」（ミカ6：8）。

バランスが取れないなら、正義よりも愛に偏ったほうがよいのでしょうか。

問 2　出エジプト記 12：1〜20 を読んでください。イスラエルがエジプトを去る前に、神はモーセとアロンに、どんな具体的指示をお与えになりましたか。

神はモーセとアロンに、エジプトからの出発をいかに計画するかの指示をお与えになると、誰もが予想するでしょう。特に高齢者や幼い子ども連れの母親、動物などの脱出のための準備です。ところが、神の指示は驚くべきものでした。神は彼らに、過越祭の祝い方を教えられたのです。言い換えれば、彼らを救い出そうとしておられる主を礼拝することに、焦点が合わせられています。それ以外のことはみな、あと回しなのです。

各家族は、無駄のないよう、小羊を準備することになっていました。全員が自分の分を食べなければならず、家族が小羊を食べきれない場合は、ほかの家族と一緒に食事をすることになっていました。

問 3　出エジプト記 12：13、14 を読んでください。最後の災いがやって来たとき、主はイスラエルの民のために、どんなことをなさるおつもりでしたか。これは、一体何を象徴しているのでしょうか。

出エジプトは、神が先祖のためにしてくださった過去の出来事を記念するだけでなく、現在の世代に対する神の救済行為の実現としても、毎年定期的に祝われました。これは、それぞれのグループにとって新鮮な経験となるはずでした。

12節と13節は、過越祭の意味を説明しています。滅びという神の裁きがイスラエルの人々を「過ぎ越す」という意味で、こうして彼らは「過越祭」を記念することになりました。この言葉は、「過ぎ去る」と「越える」という二つの言葉を組み合わせたものなのですが、それは、命と救いのしるしである小羊の血が入り口の柱と鴨居に塗られていたイスラエルの家々を、滅びが「過ぎ越した」からです。過越祭は、ヘブライ語で「ペサハ」といい、「過ぎ越す」を意味する動詞に由来しています。

過越祭の祝いは、ご自分の民のためになさった神の偉大で慈悲深い御業を、すべてのイスラエルの人々に思い出させるためのものでした。この祝いは、彼らの国民性を確立し、宗教的信念を確固たるものにするのに役立ちました。

問4　出エジプト記12：17〜23を読んでください。この新しい祭りを祝ううえで、血はどんな役割を果たしましたか。

犠牲にされた動物の血は、この祝いの重要な要素です。この祝祭に参加する人たちは、ほふられた小羊の血を家の入り口の柱と鴨居に塗りました。このようにして彼らは、血で覆われていない人々が直面するであろうことから神が彼らを救い出してくださると信じて、神への信仰を行動で示しました。

なんと力強い福音の表現でしょう！　過越の小羊は、傷のないものでなければなりませんでした。それが、「世の罪を取り除く神の小羊」（ヨハ1：29）であられるイエス・キリストを指し示していたからです。動物の血は、重要な役割を果たしました。それは保護を象徴し、死の際には命のしるしでした。

「あなたたちのいる家に塗った血は、あなたたちのしるしとなる。血を見たならば、わたしはあなたたちを過ぎ越す。わたしがエジプトの国を撃つとき、滅ぼす者の災いはあなたたちに及ばない」（出12：13）。

福音全体が過越の祝いと結びついていました。なぜなら、それが奴隷状態からの解放と約束の地へ行くことだけでなく、私たちの罪のためのイエス・キリストの犠牲と、その血によって覆われたすべての人に適用される彼の功績を指し示していたからです。

何世紀もあとに、パウロはこの祝いを振り返って、次のように書きました。「いつも新しい練り粉のままでいられるように、古いパン種をきれいに取り除きなさい。現に、あなたがたはパン種の入っていない者なのです。キリストが、わたしたちの過越の小羊として屠（ほふ）られたからです」（Ⅰコリ5：7）。

酵母、つまりパン種は、パン生地を作るために用いられます。それが聖書で最初に言及されるのは、イスラエルの民がエジプトを出る前夜に種入れぬパンを準備する場面です。酵母は、彼らの家から取り除く必要がありました（出12：8、15〜20、13：3〜7）。この特定の文脈で、酵母は罪の象徴でした（Ⅰコリ5：6〜8）。それゆえ、過越祭の1週間は、使用してはならなかったのです。

種入れぬパンは、あらゆる誘惑に打ち勝ち、私たちのために命をささげられた罪なきメシアの象徴です（ヨハ1：29、Ⅰコリ5：7、ヘブ4：15）。血に浸された「一束のヒソプ」は、神の清めの恵みを象徴していました（詩編51：9〔口語訳51：7〕）。つまり、「ペサハ」を通して、イエスのあがないの働きが啓示されていたのです。

罪をあがなうためにイエスの血が必要であることは、何を教えていますか。

水曜日　7月30日　継承する

詩編記者は、子どもたちが神と神の愛に満ちた配慮をいかにして知ることができるかについて、次のように述べています。「人々が、代々に御業をほめたたえ／力強い御業を告げ知らせますように」（詩編145：4）。親が子に、神について、神の驚くべき御業について、神の教えについて語る必要があるのは、聖書の知識を次世代に伝えるためです。

問5　出エジプト記12：24〜28を読んでください。ここでどんな重要な点が述べられていますか。

イスラエルでは、親は最初の教師であり、出エジプトの物語を子どもたちに語ることになっていました。たとえ遠い昔に起こったことでも、それは単に過去の歴史的出来事として語られるのではなく、彼ら自身の経験として語られるべきでした。祭りを祝うことで、先祖と一体になり、その歴史を追体験し、現実のものとして捉えることが求められたのです。父親はこう言いました。「私はエジプトにいて、エジプトの神々の敗北やエジプトでの災いを見て、解放されたんだよ」。出エジプト記では、過越祭に関する子どもの質問に親がどのように答えるべきか、二度強調されています（申6：6〜8、出13：14〜16参照）。

エジプトからの解放を祝いなさいと言われたとき、イスラエルの人々がまだエジプトにいたことは、注目に値します。つまり、この祝いのすべてが信仰の行為でした。命令を受けたあと、「民はひれ伏して〔彼らのあがない主を〕礼拝し」（出12：27）、それから過越祭の指示に従いました。

申命記の中で、イスラエルの人々は、先祖の物語を自分たちの旅として捉えることができるような方法で語るように注意されています。「あなたはあなたの神、主の前で次のように告白しなさい。『わたしの先祖は、滅びゆく一アラム人であり、わずかな人を伴ってエジプトに下り、そこに寄留しました。しかしそこで、強(しいた)くて数の多い、大いなる国民になりました。エジプト人はこのわたしたちを虐げ、苦しめ、重労働を課しました。わたしたちが先祖の神、主に助けを求めると、主はわたしたちの声を聞き、わたしたちの受けた苦しみと労苦と虐げを御覧になり、力ある御手と御腕を伸ばし、大いなる恐るべきこととしるしと奇跡をもってわたしたちをエジプトから導き出し、この所に導き入れて乳と蜜の流れるこの土地を与えられました』」（申26：5〜9）。

また、過越祭の物語を子どもたちに繰り返し語ることは、神が自分たちのためにしてくださったことを思い出すうえで、大いに親の助けになったでしょう。物語を伝えることは、聞く人だけでなく、話す人のためでもあったのです。

木曜日　7 月 31 日　神の裁き

問 6　出エジプト記 12：29、30 を読んでください。神はどのようにエジプトの初子を打ち撃たれましたか。なぜ神は初子に的を絞られたのでしょうか（ヘブ 11：28 も参照）。

エジプト最後の災いは、初子に降りかかりました。それは、エジプトのあらゆる神々と、これらの偽りの神々を礼拝するすべての家族に対する神の裁きであり、偽りの神々は、民衆の愛着、欲望、恐れを反映した無価値な偶像でした。

これまでの災いが示してきたように、これらの偶像は人々を救うことができませんでした。彼らの無価値さは、これまでで最も深刻な結果をエジプト人にもたらした10番目の災いの中で、一層明らかになりました。

「エジプトの広大な領土のいたるところで、すべての家庭が誇りとしていたものが殺された。悲しむ者の叫びと嘆く声がどこからも聞こえた。王と廷臣たちは顔を青くし、足を震わせながら、この恐ろしいありさまを眺めて立ちすくんだ」（『希望への光』141ページ、『人類のあけぼの』第24章）。

ファラオはエジプトの究極の権力と神を代表しており、彼の初子は神の子と考えられていました。イシスは子どもたちを守る女神、ヘケトは女性の出産に立ち会う女神、そしてミンは生殖の神でした。これらに加えて、エジプトには豊穣（ほうじょう）の神々がいました。が、これらの神々はみな、生ける主に比べれば無力でした。モーセは、「主よ、神々の中に／あなたのような方が誰かあるでしょうか。誰か、あなたのように聖において輝き／ほむべき御業によって畏れられ／くすしき御業を行う方があるでしょうか」（出15：11）と言っています。また、のちにエトロは、「今、わたしは知った／彼らがイスラエルに向かって／高慢にふるまったときにも／主はすべての神々にまさって偉大であったことを」（同18：11）と証ししています。

出エジプト記1章によると、エジプト人はイスラエルの人々を弱らせ、服従させ、屈辱を与えるために、ファラオの命令でイスラエルの生まれたばかりの男の子を殺しました。今や、神の罰がエジプトの初子を撃ちます。人は、まいた種を刈り取るのです。

私たちの決断と実際の行動は、結果をもたらします。そして、私たち誰もが経験したことのある痛ましい真実は、間違った行為の結果に苦しむのが私たちだけではないということです。ほかの人たち、時には多くの、罪のない人たちさえもが、同様に苦しみます。それが罪の性質なのです。

あなたは、ほかの人の罪によってどんな苦しみを受けてきましたか。

金曜日　8月1日　さらなる研究

参考資料として、『人類のあけぼの』第24章「過越の祭り」を読んでください。

「過越の祭りは記念の祭りであると共に、また、一象徴的な祭りでもあった。それはエジプトからの解放を指示していたばかりでなく、キリストがその民を罪の束縛から自由にして成就される、さらに驚くべき解放をも表示していた。犠牲の小羊は、われわれの救いの唯一の希望である『神の小羊』をあらわしている。『わたしたちの過越の小羊であるキリストは、すでにほふられたのだ』と使徒は言った（Ⅰコリント5：7）。過越の小羊はほふられるだけでは十分ではなく、その血を柱に注がなければならなかった。そのように、キリストの血といさおしは魂にも適用されなければならない。われわれは、キリストが死なれたのは世のためばかりでなく、われわれ1人1人のためであることを信じなければならない。われわれは、贖（あがな）いの犠牲の功績を自分のものとしなければならない」（『希望への光』139ページ、『人類のあけぼの』第24章）。

今日に至るまで、世界中の、戒律を守るユダヤ人の家庭では、過越祭（つまり「ペサハ」）を祝っています。彼らは、「過越のセデル」（「セデル」は「順序／手順」を意味します）と呼ばれる祝宴を催し、その中で出エジプト記を語り、それから特別な食事を家族で楽しみます。文字どおり出エジプトの時代からこれが守られているというのは、驚くべきことです。戒律を守るユダヤ人も順守する第七日安息日だけは、さらに古代にまでさかのぼります。

話し合いのための質問

❶「罪のない」者が大勢いたはずの初子を撃たれた主の「公正さ」を、私たちはいかに理解したらよいのでしょうか。大洪水のことも考えてみてください。このような出来事を、神の愛といかに調和させることができるでしょうか。

❷ 信者はイエスの血で覆われており、イエスの血はすべての罪から清めるという象徴的な言葉は、どんな意味を持っていますか。

❸ 次の言葉を読んでください。「キリストに従う者は、彼の経験にあずかる者でなければならない。彼らは神の言葉を受け入れ、消化し、それが彼らの生活と行為を動機づける力となるようにしなければならない。彼らは、キリストの力によって彼のかたちに変えられ、神のご性質を反映しなければならない。……そうしなければ、彼らの中に生命はない。キリストの精神と働きが彼の弟子たちの精神となり、働きとなるべきである」（『希望への光』140ページ、『人類のあけぼの』第24章）。ここに書かれていることを、キリストによって私たちの内に実現していただくには、どうすればよいでしょうか。